



鶏 けいめい 鳴

2009年2月8日(第22号)

イエスの言葉

『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう』

聖書(マタイ福音書 4章 19 節)

牧師 河合 裕志

「イエスはガリラヤ湖のほとりを歩いておられた」。早い時間帯だろう。湖から吹いて来る風を感じながら湖畔をイエスは歩いて行く。すると網を打っている二人の男達を見た。日焼けした頑健な体。彼らはシモン(ペトロ)とその兄弟アンデレ。網を打ってはたぐりよせる彼らの働きぶりをしばし見ていたイエスは声をかけた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」。

とんでもない声をかけたもの。こんなこと誰もが言えるものではない。時に悪い大人が小さな子どもに、わたしについて来なさい、いい物あげ、いい所に連れてってやるよと誘いかけ害する。今この誘いかけをイエスは大人の大人にやっている。これは注意した方がいいぞ、うかうか従って行ったらとんでもない目に遭うぞ。彼らはケンソウな目つきで声の主(ぬし)を見たとか。

人間をとる漁師にしよう、などとうまいことを言う。俺達は長いことこの湖で魚をとりこれを売って生計を立てて来た。人間をとる漁師など皆目見当がつかない。うっかりついて行って食いっぱぐれることにならないかーこんな思いもよぎったか。

ところがこうした予想は大幅に違った。「二人はすぐに網を捨てて従った」。こんな

ことってある? アンビリーバブル。信じられない。彼らはこの声に、その主(ぬし)におかしがたい権威をビビッと感じた。とても抗し切れない。一寸待って下さい、少し考えさせてほしいと言えない圧倒的な迫力を感じた。すぐに網を捨ててイエスにつき従い弟子となってしまう。更に人間をとる漁師に、つまり伝道者になってしまう。

イエスはその後も今日に至るまでおんなじように声をかけている。それに応じて弟子となり伝道者となった者達によりキリストの教えは伝えられて来た。ザビエルもそう、150年前幕末に横浜に上陸したヘボン等もそう。私も及ばずながら。

伝道を仕事とする者にならなくてもイエスの弟子として立って行ける。普通の仕事を実実に果しながら弟子として歩んで行ける。イエスの言葉を学びイエスの行いになり神を愛し人を愛して行く道。教会を愛し、自分なりに出来る範囲でキリストを指し示す手となり声となる。これは在家伝道者、信徒伝道者。キリストのお弟子となる、これは誠に光栄なこと、感謝なこと、心定まること。今この国にもう百万のお弟子がほしい。

集会案内

主日礼拝 : 毎日曜日午前10時15分
 子どもの教会 : 毎日曜日午前9時
 高校生会 : 毎日曜日礼拝後
 婦人会・壮年会 : 第2日曜日礼拝後
 聖書を学ぶ集い : 第4水曜日午前10時
 オリーブの会(読書会) : 第3月曜日午前10時